

下房俊一教授 略歴・研究業績



略歴

昭和19年1月15日生
昭和46年3月 京都大学大学院文学研究科博士課程
（国語学国文学専攻）単位取得退学
昭和46年4月 京都大学助手（文学部）
昭和48年4月 島根大学講師（文理学部）
昭和50年4月 同 助教授（文理学部）
昭和50年6月 同 助教授（法文学部）
昭和61年4月 同 教授（法文学部）
平成20年3月 同 定年退職

著書

『原本現代語訳 陰徳太平記』《共著》（昭和53年3月 教育社）
『桃菴撰 木馬笑吟集』（平成6年3月 松江市）
『レッツ！連歌』（平成10年9月 山陰中央新報社）
『レッツ！連歌 第二集』（平成13年6月 山陰中央新報社）

論文

- 伏見宮貞成（昭和43年11月 国語国文37卷11号）
西笑承兌 — 『学問所記』を中心に —（昭和47年11月 国語国文41卷11号）
「つれづれ」考（昭和52年12月 国語国文46卷12号）
桑原文庫善本総覧（昭和53年3月～57年3月 山陰文化研究18～21号）
上井覚兼 — 戦国武士と古典との関わり —（昭和53年6月 論集 日本文学・日本語3）
武家庖丁の成立（昭和59年3月 国文学 解釈と教材の研究 29巻3号）
鷲保教の伝授と工夫（昭和59年10月 芸能史研究 87号）
昔話から絵巻へ — 『福富草子』の成立 —（昭和61年7月 口承文芸 13号）
注解『七十一番職人歌合』稿（昭和61年12月～平成16年8月）
島根大学法文学部紀要 文学科編9～24号・島大言語文化1～17）
パロディの手法 — 『七十一番職人歌合』第一番左歌の場合 —（平成5年3月 島大国文 21号）
口語資料としての画中詞（平成7年2月 島大国文 23号）
たわむれの歌・たわむれの判 — 職人歌合の世界 —（平成8年5月 国語国文65巻5号）
絵巻の行列（平成20年3月 島大国文32号）

その他

- 『角川 古語大辞典』（昭和57年6月～平成6年10月 角川書店）中世語彙の項目の執筆
『新編 国歌大観』第十卷（平成4年4月 角川書店）『七十一番職人歌合』の校定